

障がい当事者部会への質問に対する回答

令和3年度第1回就労支援部会（書面開催）で、部会員の皆様から募った「障がい当事者部会の部会員へ聞きたい内容」について、令和3年度第2回障がい当事者部会（3月29日開催）で議題として取り上げた。以下、各質問への意見を報告する。

各質問は、障がい当事者部会の部会員が答えやすいよう、あらかじめ事務局で選別・整理し、障がい当事者部会の時間の都合上、アンケート形式により意見を賜った。

障がい当事者部会の部会員へ聞きたい内容
<p>障がい福祉サービスの情報は、主にどこから入手していますか。</p> <p>例）行政の窓口・広報誌・ホームページ、病院等の医療機関、相談支援事業所、家族・親族、友人・知人、インターネット検索</p>
障がい当事者部会員のご意見
<p>○例示にある全て。特にインターネット検索が多い。</p> <p>○行政の窓口、広報誌等。サービスによって、担当部署など</p> <p>○行政の窓口（障がい者福祉センター含む）、病院の医療相談、地域活動支援センター、就労継続支援B型などの通所事業所、高次脳機能障がいと難病のピアカウンセリング</p> <p>○板橋区視覚障害者福祉協会、行政の窓口、認定NPO法人タートル</p> <p>○区ホームページ、いたばしこころの健康ガイドブック</p>

障がい当事者部会の部会員へ聞きたい内容
<p>障害者就業・生活支援センターについて、どの程度知っていますか。</p> <p>また、期待することなどがあれば、ご意見等伺いたい。</p>
障がい当事者部会員のご意見
<p>①機関の名称・取組内容まで知っている・・・2名</p> <p>②機関の名称は知っているが、取組内容までは知らない・・・3名</p> <p>③全く知らなかった・・・0名</p> <p>○JHCの事業なので、精神障がい者のみが対象と思っていた。もっとPRしてみては。</p> <p>○治療を受けた病院によって、繋がった人と全く繋がらなかった人がいる。病院は100%存在を知っていて、必要な人に繋げるようになって欲しい。病院での研修とセンター側からのPRがもっともっと必要では？</p> <p>○視覚障がい者の就労ノウハウについて、情報をしっかり修得して欲しい。</p>

障がい当事者部会の部会員へ聞きたい内容
就労について、悩んでいたことや不安だったことがあれば伺いたい。
障がい当事者部会員のご意見
<p>○高次脳機能障がい者の場合、職場にもどってから「できなくなった」ことに気づく人が多い。出来なくなったことで配置転換の挙句、結局は自己都合退社を余儀なくされてしまう人も少なからずいる。復職する時にセンターのサービスを当人と会社側双方に伝わるようになって欲しい。</p> <p>○私は認定 NPO 法人タートルで、視覚障がい者の就労支援を行っています。視覚障がい者から相談があった場合には、タートルにつないでいただくと有効な助言ができると思います。</p> <p>※「参考資料 特定非営利活動法人タートル情報誌」参照</p> <p>○精神疾患は体調の波が大きい。就労できても、体調の悪いときは休むことが必要。</p>

障がい当事者部会の部会員へ聞きたい内容
障がい者の就労に関して、年々、職場に定着する（離職しない）ための制度が充実したり、支援する機関の種類・数も増えてきたりしているが、さらに充実させてほしい、改善してほしいことがあれば伺いたい。
障がい当事者部会員のご意見
<p>○職場の上司が障がいの特性を理解していない場合も多い。特性を考慮せず、「仕事ができなくて、他の仲間に迷惑をかけている」と、一方的に当事者を責める例もよく聞く。弱い立場の障がい者は自分を守れない。しかし第3者に訴え、それを知られ職場にいられなくなるというリスクはとれない。したがって、ただ我慢することになる。不適格な人がそうした立場につかないなど、何かの仕組みが必要である。</p> <p>○高次脳機能障がい者の場合、定着の期間が長くかかる。又、適性を見極めるのも難しいので、一社失敗しても繰り返し利用できるのが望ましい。</p> <p>○的確なところにつなげる、ネットワークづくり、相談体制の構築が必須と考えています。</p> <p>○精神疾患を抱えて働く人を応援する企業が増えてほしい。</p>